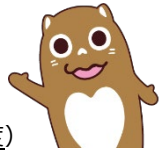
0（ゼロ）からのスタート「公式ホッケータウン茨城県境町」が取り組む“地域おこし協力隊”を活用した持続可能な「スポーツを核としたまちづくり」～Well-beingの実現とスポーツ移住による人口増への転換～

スポまち！表彰2024
⑦茨城県境町

＜目標＞　計画期間：～令和10年３月31日

「ホッケー」を軸に移住定住促進・交流人口拡大・健康増進等 ”地方創生” を実現！

① 【移住定住の促進】 社会増減数：**158人増**（令和5年度） → **740人増**（累積・令和6年度～令和9年度）
② 【交流人口の拡大】 交流人口　：**約80万人**（令和5年度）→ **約370万人**（累積・令和6年度～令和9年度）
③ 【健康増進】 ホッケー場 延べ利用団体数：**212団体**（令和5年度）→**940団体**（累計・令和6年度～令和9年度）



＜ＰＲポイント＞

① **オリンピック基準の“本物”のホッケー場で、オリンピアンや日本代表等“一線級”の地域おこし協力隊による指導を実現！**
地域に根付いていなかったホッケー競技について、０(ゼロ)から施設整備を行い国内外の代表合宿やオリンピック事前キャンプ誘致、またオリンピアン等の人材獲得に成功。競技の普及活動にも取り組み、日本ホッケー協会より「公式ホッケータウン」に認定。
② **豊富な子育て支援でスポーツ移住をサポート！**
スポーツ施策のほか、先進的な英語教育やPFIを活用した子育て世帯向けの住宅の整備等、様々な移住定住施策を展開。

▲パリ2024大会に出場したホッケー女子日本代表の永井隊員

〈現状・課題〉

●これまで、各種スポーツ施設等のハード整備や、地域おこし協力隊を活用した競技人口の拡大等のインナー政策、また移住定住に向けた各子育て支援等のアウター政策などを実施してきた結果、減り続けていた町の人口が「下げ止まり」の状況に改善。
●今後、持続可能なまちにしていくためには「下げ止まり」の状況から「現状維持」の状況へ、さらには「人口増」への転換が必要。
●今後、Well-beingの実現と人口増の状況へ転換していくために、「ホッケー」を軸として、一線級の地域おこし協力隊を活用しながら持続可能なスポーツを核としたまちづくりを進め、「健康増進」や「スポーツ移住」の促進等を図っていく必要がある。

▲ホッケー無料体験教室の開催

〈総合的な取組内容〉

＜継続的な取組を確保できる体制（図）＞

町（自治体）
（スポーツ・健康推進・観光・公共交通等の関係部門含む）
●全体取りまとめ
●一線級の“地域おこし協力隊”の活用
●受入れ整備（主にハード面）
●スポーツ大会や合宿時における関係各所との各種調整 等

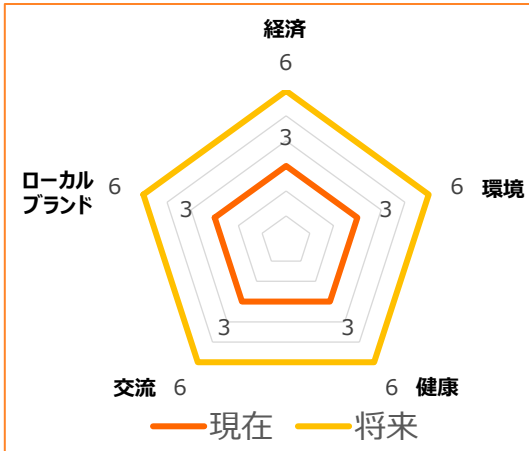
DMO（観光地域づくり法人）
（（株）さかいまちづくり公社）
●スポーツツーリズム等の観光コンテンツ開発
●多様な関係者との連携調整 等
【多様な関係者例】
商工会、観光協会、青年会議所、旅館料理組合、飲食業組合、境町いきいきクラブ連合会、観光バス事業者 等

指定管理事業者
（境町ホッケーフィールド）
●施設の管理・運営
●受入れ整備（主にソフト面）
●イベント等企画 等

外部アドバイザーとの連携

境町戦略会議委員
（国・大学・民間企業等のメンバーで構成）
●町が実施する事業について、様々な角度から指導・助言等を行う

＜セルフチェックシート＞



【フォローアップ欄】令和7年度以降における計画の進捗状況

問合せ先・電話番号

茨城県境町 企画部地方創生課　0280-81-1309